科目名	犯罪心理学	科目分類	■専門科目群（第１グループ） □総合科目群（第２グループ） 法律学科　□必修　■選択 学科　□必修　□選択
英文表記	Criminal Psychology	開講年次	■１年 □２年 □３年 □４年
ふりがな	おおぶちけんいち　かわばたけやす	開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中
担当者名	大渕憲一　川端壮康	修得単位	４単位
授業のテーマ	犯罪の社会的要因と個人的要因を理解する		
到達目標	犯罪の原因を多面的に理解して、犯罪抑止や被害予防の方策を考えることができる。		
授業概要	我が国では、近年、犯罪が減少しているが、人々の犯罪不安は依然として高い。犯罪に対する科学アプローチとしては、犯罪発生の原因を探求する、犯罪捜査を支援する、刑事裁判のあり方を分析する、犯罪者の更正を支援する、犯罪予防の方策を検討する、など種々のものがある。この講義では、犯罪原因論に的を絞り、犯罪の社会的要因と個人的要因についての心理学的研究と理論を紹介し、また、犯罪原因の統合的理解を目指す。		

授業計画

第１回	講義概要と成績評価の説明	第17回	「大阪教育大学付属池田小学校事件」から考える：人はなぜ犯罪をするのか？
第２回	現代日本の犯罪動向１	第18回	犯罪の個人的要因：脳と犯罪
第３回	現代日本の犯罪動向２	第19回	犯罪の個人的要因：遺伝と犯罪
第４回	犯罪原因の科学的研究	第20回	犯罪の個人的要因：知能と犯罪
第５回	犯罪の諸理論：説明の５水準	第21回	犯罪の個人的要因：性格と犯罪１
第６回	犯罪の社会的要因：緊張理論１	第22回	犯罪の個人的要因：性格と犯罪２
第７回	犯罪の社会的要因：緊張理論２	第23回	犯罪者の人格像：再び、「池田小学校事件」から
第８回	犯罪の社会的要因：緊張理論３	第24回	犯罪の発達要因：縦断的研究から
第９回	犯罪の社会的要因：下位文化理論１	第25回	犯罪の発達要因：家庭環境と犯罪
第10回	犯罪の社会的要因：下位文化理論２	第26回	犯罪の発達要因：発達障害と犯罪
第11回	犯罪の社会的要因：下位文化理論３	第27回	犯罪の発達要因：非行の発達パターン
第12回	緊張理論と下位文化理論の統合	第28回	犯罪原因の統合的理解
第13回	犯罪の社会的要因：統制理論１	第29回	様々な犯罪者たち：犯罪心理学各論１
第14回	犯罪の社会的要因：統制理論２	第30回	様々な犯罪者たち：犯罪心理学各論２
第15回	犯罪の心理学的アプローチ	第31回	様々な犯罪者たち：犯罪心理学各論３
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

授業時間外の学習	①犯罪事件を報道する新聞や雑誌に目を通す。 ②現実の犯罪事件を取り上げたノンフィクションやルポルタージュを読む。
履修条件	特になし
テキスト	大渕憲一　『犯罪心理学』培風館
参考文献・資料	細江達郎　『図解雑学：犯罪心理学』ナツメ社
成績評価の方法	２回の試験（70%）、受講態度（30%）
オフィスアワー	授業終了後
成績評価基準	平成２８年度（２０１６）以降入学した学生 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) 平成２７年度（２０１５）以前に入学した学生 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金が未納の場合は試験を受けることができません。

学生への メッセージ	新聞、ネットなどで実際の事件を詳しく見ておくと、授業の理解に役立つ。